



F.T.W. 4th show

Best of show Selected custom Motorcycle

クールブレイカーと同日開催だったゆえ、フルメンバーで基本、二人という体制の我がHCCでは取材を果たせなかったF.T.W.4th。その懺悔というワケではありませんが、ここではBEST of SHOWのマシンはバキッと掲載、H-Dからスクーターに至るまでバラエティー溢れる車両が咲き乱れる。あの会場の頂点とは……。





ストックのフレームは前方向へのストレッチがメイン。しかしスイングアームはワンオフで製作されており、ネックからリアのアクスルまで一直線に続くラインは当然ながら計算された結果である。技量の高さが伺えるポイントだ。ディメンションも適切なもの、である。



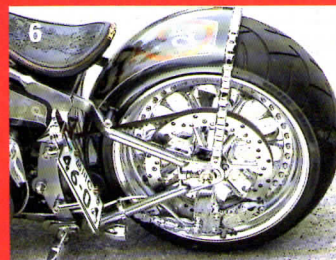
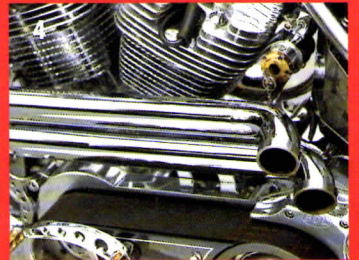
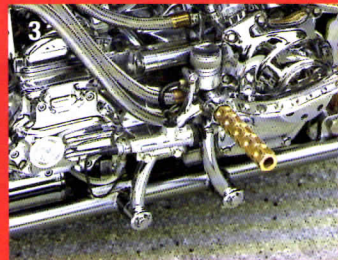
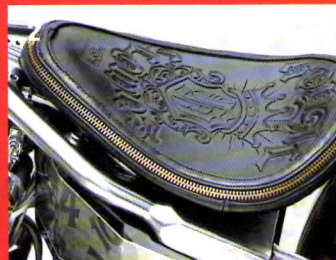
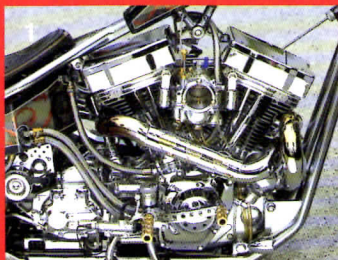
だが、このマシンにはもう一つ、セレクトッドの基本コンセプトが反映されている。そのキーワードこそが『走り』であり、たとえ見てくれが良くてもハードな走りに対応できなければ意味がない、という確固たる信念が貫き通されているのだ。実際、そのモーターのスペックを見れば、88cu.inのストック・ツインカムはSTD製シリンダーにS&Sのヘッドを組み込んで1800CCへとサイズアップ。さらにTPエンジニアリングのロクカーアームにアンドリュース製カム、ジムズのリフターブロックなどが使用されており、仕上げはS&SのGキャブを使うなど、相当なパフォーマンスを持つパ

ワードだけでなく、国産スポーツやビッグスクーターなど、カスタムされたモーターサイクルなら何でも良い、というノーカーテコライズなスタンスで今年も大盛況となったFTW。だが、その広いレンジの中、ビルダーズチョイスで見事一位のアワードに輝いたのが、若手ショップの注目株、セレクトッド・カスタムモーターサイクルだ。「都会の中を走る時、美しく調和するチョッパーを創る」という基本理念を持つセレクトッドは、当初から洗練されたハイソサエティなチョッパーを数多く生み出しているが、ここに紹介するマシンもそのご多分に漏れず、極上の仕上がりとなっている。「ロイヤル・クラウンズ」との名が与えられたこの一台は、ベースにFLSTCを使用し、フレームもストックをモディファイしたものの。しかしその姿は、あたかもワンオフで造られたようなバランスを保っており、全体のスタイリッシュな姿のベースとなっている。

都会の喧噪をBGMに聴きながら走る 洗練されたアーバン・チョッパー

文=アッキー加藤 text by AKI KATO
写真=伊藤 潤一郎 photographs by JUNICHIRO ITO
取材協力=セレクトッド・カスタム・モーターサイクル phone 045-252-2933 www.selectedt.co.jp

ワートレインといえるだろう。薄汚れてサビの浮いたオールドスクールを好む人もいれば、美しいネオ・チョッパーを好む人もいる。しかしどのようなモディファイを行おうとも、チョッパーには『走り』というのが根底にあるべき、ということを忘れてはならない。チョッパー黎明期から現在に受け継がれたその理念を未来へと紡ぐのは、セレクトッドのような若手に与えられた宿命だといえよう。



1. クランクやコンロッド、ピストンなどを除けば、ほとんどがアフターメーカーのチューニングパーツで占められるモーター。エキゾーストの取り回しも美しい。2. 美しいカービングが施されたソロシートはブル・オリジナルの手によるものだ。3. フットコントロールにも、一切の妥協は許されない。まさに美麗といえる仕上がりだ。4. シリンダー横を通り、車体左側へ配されるエキゾースト。パイプエンドの処理にも拘りが見える。5. 極上のポイントが施されたタンクは当然ワンオフ。その製作は至難を極め、3つも造り直したという。上面にはジルコニアがあしらわれる。6. リアフェンダーもワンオフながら2回も造り直されたもの。ブレーキシステムは前後ともブレンボが奢られ、エンジンのパフォーマンスに負けないストッピング・パワーを持つ。ホイールは9J-18インチのビッグマシン製を装着する。